平成22年9月6日

清水町議会議長 田 中 勝 男 様

清水町議会総務文教常任委員会
委員長 口 田 邦 男

所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事項 地域交通システムについて
2. 調査期日 平成22年8月23日～24日
3. 調査先 弟子屈町、美幌町

4. 調査の結果

【弟子屈町】（8月23日）

弟子屈町は、摩周湖や川湯温泉など観光資源を有する町であるが、景勝地や温泉地は、いずれも市街地から離れ点在しているため、観光客は自家用車・レンタカー等を利用して来るのがほとんどである。

近年、高齢者や外国人の観光客の中には、JR釧網線を利用して来る方も増加しており、駅を降りた後の交通手段の問い合わせが増えている一方、地域住民の足として利用されている路線バスの利用者

は減少しており、一部の路線バスは廃止となっている。

そこで、平成 21 年 3 月に地域交通総合連携計画を策定し、自然環境に配慮した観光客のマイカーに替わる交通体系と地域住民の生活交通体系が一体となった交通網の構築を目指し、現在、実証運行が行われている。

JR 釧網線の摩周駅を降りてからの観光客に 2 次交通として、景勝地への路線バスや市街地を循環する路線バスを活用してもらうことで、地域住民の足も確保しながら、路線バスの存続に向け事業を行っている。

特に、弟子屈 2 days えこパスポート事業の取り組みは、鉄道・バス・レンタサイクルの 3 つの異なる交通モードを連携させ、町内 2 日間乗り放題を 1,000 円で提供し、地域住民も JR 列車とバスの乗り継ぎ利用で利便性が高まり、好評を得ている。

今後も、商工会や観光事業者との連携や啓蒙活動による利用促進、公共交通の利便性向上と観光利用促進を主眼におき、事業化に向けて検証を行い、観光客と地域住民の足の確保を行っていくとのことであった。

【美幌町】（8 月 24 日）

美幌町では、民間バス事業者が運行している路線バスと町が運行しているスクールバス、町営バス、福祉バスがあるが、一部重複路線や交通空白地帯もあり、その解消を図るために、平成 21 年 3 月に地域公共交通活性化計画を策定して実証運行に取り組んでいる。

市街地の公共交通については、身近に誰にでも利用しやすい循環バスの運行形態を目指すという視点、さらに郊外農村部ではスクールバスを中心とする一般町民混乗利用による公共交通体系を再構築し、児童生徒の送迎と、自家用車等を利用できない高齢者等の足の確保を担うという視点で進められている。

町では、利用者の低迷により民間バス事業者に対し、毎年度 1,500 万円、このうち市街地を走る循環バス路線には、最も多い 1,000 万

円の補助を行っていた。この路線は、市街地を平日 8 便、土曜日 5 便運行し、料金は 1 乗車 100 円で利用されているが、1 便平均 5 人から 7 人程度の利用にとどまり大きく採算割れしている状況である。

郊外農村部の地域住民の足としては、一部地域で運行されている民間事業者のバス路線と、民間バス路線の廃止に伴い代替交通手段として町が運行している町営バスがあるが、その他に 65 歳以上を対象とした福祉バスも月 3 回 4 路線で運行していた。

なお、市街地の循環バス路線を除いては、65 歳以上の利用料金は、全て無料となっている。

平成 21 年度実証運行では、市街地循環バス路線の見直し運行を 1 か月間実施したが、情報が町民へ十分伝わっていないなど不評であり、利用者も伸びなかったことから、今年度の実証運行では冬場も含めて 6 か月間に延ばし、路線の見直しと十分な周知を行うこととしていた。

また、郊外農村部では、スクールバスの一般住民の混乗を行うことで、65 歳以上を対象とした福祉バスを廃止し、スクールバス路線がない地域には、新たにデマンド（予約）方式の乗り合いタクシーを週 1 回運行。料金は、福祉バス同様に 65 歳以上の高齢者を登録制にして無料とし、通院や買い物等の足を確保するよう準備を進めている。

同町では、平成 23 年度まで実証運行を行い、公共交通としてのあり方について、更に地域住民と議論を深めていきたいと話していた。